

安全ニュース・号外

関連・協力会社各位

CHIYODA

令和7年6月26日
千代田運輸株式会社
安全管理部発行



贖いの日々

交通事故
当事者の
痛恨の
手記

まさか、自分が

トラック運転手 40代

それはゴールデンウィーク中の出来事でした。お昼休憩を取り、午後の仕事を再開した直後に、私は取り返しつかない重大事故を起こしてしまいました。事故の直後は頭が真っ白になり、なぜ事故が起きたのか分かりませんでした。当時、私は8トントラックを運転し、運搬作業を行っていました。

事故を起こした日は、午前の配達を終え、昼食後に昼寝をしたので、眠気で注意力が低下することはありませんでした。

午後から再度荷物を積み込むため、運転を再開し、交差点の手前まで来た時のことです。

何かが助手席の足元に落ちたのに気付きました。私はそれが気になり、それを取るため前方から目線を離すと、足元を探し始めました。

そして、落ちた物を拾い顔を上げると、目の前に左折している原付バイクが見えました。咄嗟に避けようとしたのですが、間に合わず、「ドーン」という大きな音をたてて衝突してしまいました。

原因は、私が赤信号に気付かず交差点内

遺族に謝罪したい旨を弁護士にお願いしました。

しかし、ご遺族の方から「あなたとお話しする事はない。手紙を出されても受け取らない」と弁護士を通じて伝えられました。さらに相手の弁護士からは、「ご遺族は、私が重い刑になることを望んでいる」と言われました。

ご遺族に直接謝罪することができないまま裁判が始まり、私は過失運転致死罪で禁錮2年6ヶ月の判決を受けました。

あまりに軽い判決でご遺族は納得されていないと思います。

私は現在、市原刑務所で刑に服していますが、今までの弱い自分を改め、これから同じ過ちを繰り返さないよう強い意志を持ちたいと、反省の日々を過ごしています。私の不注意により多くの人達にご迷惑をかけてしまいました。志半ばで亡くなった被害者のもとより、そのご遺族や親戚の皆さん、そして被害者の友人、会社や同僚の皆さんなど多くの方々にご迷惑をかけました。ハンドルを握る際は、危険予測を行い、事故を未然に防ぐための注意を払うことは、ドライバーに課せられた当然の義務だと思っています。

それなのに、私は運転中にもかかわらず、前方から目を離してしまいました。どうしても落とした物が気になるなら、一旦、安全な場所に停車して、それから拾

に入ったからです。

私はトラックを止め、急いで救護に向かいましたが、道路上に倒れた被害者は頭を強く打ったようで、頭から血を流し、苦しそうな表情をしていました。

私は被害者のベルトを緩め、呼吸を容易にした後、次に何をすれば良いか分からず戸惑っていると、周りにいた人が駆けつけて来て、「救急車を呼びますか？」と声を掛けてくれたので、即座に「お願いします」と答えました。

その後、救急車と警察官が到着し、私はその場で逮捕されました。

被害者の方は地元の警察官で、通報があり現場に向かう途中だったそうです。

私は警察署で「被害者の方が亡くなった」と知らされると、「人を殺してしまった。ああ、俺の人生は終わった」と思いました。

裁判が始まったのは半年後のことで、それまでは家に籠り、一時は自分の命を絶つことさえ真剣に考えました。

しかし、自分が命を絶つても被害者の命が戻ってくるわけではないと思い直し、こ

えば良かったのです。

それを「少しくらい目を離しても大丈夫」といった自分勝手な安易な判断から、取り返しのつかない事件を起こしてしまいました。

私はこの先、亡くなられた被害者やご遺族のことを思い、今回の事件を一生背負って生きていきます。

刑務所での生活を終え、社会復帰しても私の犯した過ちは決して許されるものではありません。

しかし、精一杯の償いを続けることで、私という人間を少しでも認めてもらえればと考えています。

この事件を起こす前は「自分は交通事故など絶対に起こさない」といった自身過剰な考えを持っていました。

今思えば、何という思い上がりだと反省しています。

重大事件を起こした私に、安全運転を語る資格はありませんが、交通事故を起こさないためには安全運転を心掛け、規則を守ること、そして、しつこいほど安全確認を行うことが大切です。

また、ハンドルを握る際の心構えとして、「確認・確認・再確認」が大事です。

安全確認にはさほどの時間は掛かりません。私と同じ過ちが繰り返されないよう、私の反省と後悔が少しでも皆さんの心に伝われば幸いです。